

地元生徒に進学支援



開講式で、新渡教育長⑥の話を聞く受講生たち

町教委・短期講座

野辺地

野辺地町教育委員会は1日、町中央公民館で、地元の野辺地高校と野辺地西高校の生徒たちの大学進学を支援する夏季短期講座をスタートさせた。両校を中心とした2、3年生計13人が5日までの5日間、夏休み返上で勉強に励む。

同講座は町教委と両校が2018年に締結した教育連携パートナーシップ協定に基づく取り組みで、昨年から実施。町内にある県立と私立の高校2校の大学進学率を高めることで、両校への進学者を増やそうと、事業費の全額を町

教委が負担している。

講座は2、3年生の学年ごとい、1日当たり国語、数学、英語の3コマあり、3年生は大学入試を見据えた小論文の講義もある。地域教育サポート・コンサルティングなどを行っている仙台市の企業に勤務する講師3人が4年制大学進学を見据えた内容を教える。

開講式で新渡幹夫教育長は「講座は税金を使っており、町民が応援している。講座で午前中に教えてもらった内容について、午後に自分で問題を解いてほしい」と呼びかけた。野辺地高校3年の姥名健皓さんは「大学進学に向け、数学を強化したい」と話した。

短期講座は冬休み期間中にも開催する。

(兼平昌寛)

夏休み 学力伸ばそう